



**半澤 幸博 農業（農業土木）／総合技術監理部門**

**勤務先：**財北海道農業近代化技術研究センター TEL (0164)25-1591 E-mail : hanzawa@hamc.or.jp

私は、函館市に生まれ、紋別市・小樽市・函館市・盛岡市と移動し、1979年から“米どころ”深川市（札幌支所もあり）にある当財団に勤務しています。当財団では“調査研究業務”を主体的に行っており、私は農業用水環境調査解析、水理模型実験、ほ場調査解析、水・土診断関連業務に携わっております。専門は農業土木ですが、土壌養分分析結果からの作物影響評価や、肥料・農薬に含まれる有害物質分析結果からの用排水影響評価などに関連した仕事をしています。農業農村整備技術に対する調査研究の他に、水質・土壌・堆肥・作物体分析に対する計量管理と評価、作物生理から収量・品質に対するメカニズムの理解など、勉強しなければならない課題が山積みで、日々悪戦苦闘しております。

例えば水質循環に対し地球規模で環境影響を考える場合、施設・食物・家畜・人間・河川・地下水・海域環境保全といった部分最適を求めるのではなく、各分野の専門技術者の連携によって生物全体最適を追求する必要があると考えられます。現在私は、深川市の地域新エネルギービジョン策定委員会の一員として、CO<sub>2</sub>の削減のための活動をしておりますが、すこしでも社会に貢献できるよう頑張りたいと思います。

また私事ですが、衰えてきた肉体のストックマネジメントとしてゴルフ（HD15）をしており、深川近郊に同じ趣味の方がいらっしゃいましたら、雪が溶けた陽春にご一報いただけると幸いです。



次号は、小枝郁哉さん（農業部門）



**猪口 公志 上下水道（下水道）／総合技術監理部門 勤務先：北見市企業局**

「1,000万円の工事だとしたら、1,200万円の価値のあるものを市民の皆様のためにつくってください。それをあなたの企業では、800万円で作って儲けてください。私は、可能な限り協力します。そして、儲かったお金は、北見市で使ってください」。これは、私が監督員を命じられた工事を施工する企業の方々に、口癖のようにお願いしていることです。平成13年より浄化センター（下水処理場）において増設工事の監督員を勤めております。公共工事が減少する中で、毎年5億円以上の事業費が掛かる工事を担当させていただき、ありがたく感じております。また、その責任の重大さも深く感じております。

私は、昭和63年に北見市内の土木設計事務所にお世話になり、平成元年からは北見市の職員として固定資産税の賦課や水道・ガス本管工事、都市計画、下水道（計画、管渠工事）に従事してまいりました。各職場での期間は2～3年でしたが、与えられた仕事に「どっぷり漬かろう」と、考えてまいりました。

現在も、現場監督として、汚い作業服を着て、保護帽、安全帯、安全靴、安全チョッキ、革手袋を装着し（サングラスも）格好だけは一人前で、現場の施工管理、安全管理という名目で現場の中を、型枠大工さんに言われた「邪魔にならなくなったら一人前」を唱えながら、邪魔をしてちょろちょろ廻っています。

私の現場は、『楽しくなければ良いものはできない。安全も守れない』が基本です。守れない奴は斬りますから。残念！ こんな私ですが、いつも皆さんが助けてくれます。ありがとうございます。



次号は、五十嵐陽一さん（上下水道部門）

# エンジニアパーク

# Engineer *Ring* Park



**根本 任宏 建設部門（港湾及び空港） 勤務先：北海道開発局 帯広開発建設部**

私は昭和57年に北海道開発局の港湾部門（港湾・漁港・空港）の技術者として入局しました。最初の配属先が土木試験所（現・開発土木研究所）コンクリート研究室で、凍害機構の研究、コンクリート橋の耐久性調査、農業ダムの配合設計など、港と直接関わりが無い業務に6年間従事しました。そのお陰で、港以外の分野の方々との人脈をつくることができ、それが今でも私の財産です。その後、苫小牧、江差、小樽の各港湾建設事務所、本局、網走開建を経て、平成15年から帯広開建に勤務し、十勝港及び大津漁港の整備・利用促進に携わっています。特に、大津漁港の結氷対策に力を注いでいます。

これまでの勤務で最も印象深いのは、1993年北海道南西沖地震・津波による奥尻港の災害復旧です。自然の脅威、被災地の惨状が今でも目に焼き付いているとともに、被災調査・災害査定から工事発注・竣工に至るまで、多忙の日々でしたが、奥尻島復興に参画できたことが貴重な経験となっています。その後、災害からは遠ざかっていましたが、2003年十勝沖地震により所管の十勝港と大津漁港が被災したため、災害復旧に明け暮れている毎日です。2003年・2004年は地震や台風による災害が多発した年でしたが、その一方で、技術士の方々が活躍された年でもあったと思います。自然災害による被害を無くすことは出来ませんが、減災に向け、自然 vs 技術者（技術士）の知恵比べはこれからも続くとともに、いろいろな技術分野の連携が重要と感じています。私も、技術士の肩書きを持つ一人として、社会に貢献していきたいと考えています。



次号は、当間功一さん（建設部門）



**中村 一也 機械部門（産業機械） 勤務先：昭和製器株式会社 技術部**

1980年に現会社（缶詰用空缶製造メーカー）に入社し、最初の4年間は、金属印刷部門、2年間を電子部品製造部門で過ごし、その後、技術部に配属となりました。

技術部では、製缶機械・電子部品組立機械等の製作を数多く手がける事ができました。当社は、中小企業ですので、何から何まで（計画・機械設計・製作・電気設計・組立調整・製造立ち会い・費用集計・マニュアル作成……等）一人で行わなければならない、仕事はハードですが、幅広い技術を身につけることができました。その甲斐があつて？平成14年度に技術士機械部門に合格することができました。

昨年の技術士全国大会のテーマは、「社会貢献」ですが、その前提として、技術士の知名度を上げる必要があると思います。そのためには、私のような企業内技術士であっても、技術的に困難な問題を解決し、「さすがは技術士だ！」と言わせるような仕事をしなければならないと、最近は考えるようになりました。

しかし、技術士といえどもあらゆる分野の専門家ではありません。不得意な分野の技術的問題に直面したときは、技術士ネットワークを活用し、お互いに援助しあえる体制が必要だと思います。私は、機械と電気を応用して、手作業を自動化する装置を開発することを得意分野としています。このような技術的課題に遭遇した方は、ご一報下さい。微力ではございますが相談に応じることができると思います。

Email : aar97130@par.odn.ne.jp



次号は、小松友治さん（機械部門）



**福田 厚武** 上下水道部門（上水道および工業用水道） 勤務先：函館市水道局

TEL (0138)50-2690 FAX (0138)50-2691 E-mail: UGI49915@nifty.com

私は、昭和 57 年、函館市役所に採用されて以来、一貫して水道局に籍を置いています。なかでも浄水場勤務は今年で 17 年目を数えます。

私が勤務した浄水場は、緩速ろ過方式や、急速ろ過方式など、様々なタイプの浄水場で、それぞれまったく異なる性質を有しております。おかげさまで、仕事をしながら浄水の勉強をさせて頂いているような毎日です。

昨年は、天候の変動が激しく、洞爺丸台風（昭和 33 年）以来の風台風に見舞われ、在職中にはお世話にならないと思っていた、非常用自家発電機の活躍場面に遭遇したところです。ライフラインである水道は、災害時こそ平常時にまして、安心して使って頂けることが重要だと痛感したところです。

さて、現在は、浄水処理に伴って不可避免的に発生する、産業廃棄物に分類される、浄水汚泥の有効活用について、環境に負荷を与えず、自然エネルギーを十分に利用し、コスト縮減を図ることのできる方策を探っているところです。

また、道南技術士協議会に参加させて頂き、多方面にわたる興味深い技術情報に接することができ、自己研鑽に励んでいる？（励もうとしている）ところです。今後ともよろしくお願い致します。



次号は、吉田一雄さん（上下水道部門）



**西村 一郎** 上下水道部門（下水道計画） 勤務先：札幌市下水道局総務部経営管理課

1992 年より、札幌市下水道局に勤務し、管きょ工事、計画を経て、現在は、局職員の研修を担当しております。土木技術者として「まちづくり（ものづくり）」を担当していた頃とは、少し違う雰囲気があります。今は、「まちづくり（ものづくり）」を担う職員の人材育成、「ひとづくり」のお手伝いをさせて頂いているといったところでしょうか？ 研修といっても、多様で、「接遇・コミュニケーション研修」から「工事管理」に関するもの、「下水道技術（電気、機械、水処理）」の各専門に及ぶものまであります。また、昨秋には、唸家の桂枝光さんに「伝えよう“ふれあい”の気持ち」と題しまして、話すこと、聴くことの大切さについてご講演いただきました。

資質向上を図るよう務め、継続研鑽されている皆様におかれましては、日々、研修等に励まれていることと思います。自分も自己啓発に積極的に挑戦するとともに、研修の作り手として、お集まりいただいた受講者の皆様に「面白い！」、「また参加してみたい！」といった研修を企画していきたいと思っています。

未来には、なにが起こるかわかりません。私達にとって重要なことは、今までに培ったいろいろなスキルを蓄積、継承し、研き修め未来に応用し活用できるよう個々が自己研鑽に努めることと考えます。健康に留意し、長いスパンで広い視野を持ち社会貢献していきたいと思っています。



次号は、山下誠一さん（建設部門）

# エンジニアパーク

# Engineer



# Park



谷口 謹之 建設(河川)/総合技術監理部門

勤務先: パシフィックコンサルタンツ株式会社

1992年(平成4年)入社と同時に北海道支社に勤務してから早くも13年経とうとしています。これまで河川計画を基本に土壌分析、河川環境の保全、内水対策などの業務に携わってきました。私は1968年(昭和43年)に大阪のはずれに生まれ、京都のはずれに育ち、学生時代は東京のはずれに怠惰したものの、現在はJR札幌駅から徒歩10分圏に居を持つことができました。父母、妹家族、弟家族は今でも京都のはずれに暮らしています。父は既に御引退の年齢を超えていますが、優れた技術と厚い人望から未だ現役で活躍されており、そんな父を心から尊敬しております。母は、琴、三味線、舞踊といった和の極めを通じて地域活動に積極的に取り組まれており、そんな母を誇りに思っております。私家といえば私と妻、娘の3人で、のびのびと平穏な日々を過ごしております。最近、休日には親子で水泳法強化に取り組んでいます。娘は6歳になりましたが、先日、25mをようやく完泳でき(父は専ら丘のコーチ……)、私の親馬鹿さに更なる磨きをかけてくれました。そんな娘には、強く優しい子に育てられることを期待しています。最後に、前号で言われておりました「初心忘るるべからず!」ですが、私自身は、結果が良きも悪きももう一度原点に立ち返り、より意欲を持って取り組むことを常に心がけている所であります。今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。今年も皆様にとって良いお年となりますよう心からお祈りしております。

—以 上—



次号は、岸田憲和さん(建設部門)